登録簿(鳥獣保護管理捕獲コーディネーター)

登録番号		C12001	
(ふりがな)		ありいずみ おおい	
氏	名	有泉 大	
連絡先	名 称	JPN野生鳥獣研究所	
	役職	代表	
専門分野		鳥獣保護管理捕獲コーディネーター	
専門とする鳥獣		☑イノシシ ☑ニホンジカ ☑ツキノワグマ □ヒグマ ☑サル □カモシカ ☑カワウ □外来種(□その他()
主な活動地域		□北海道 □東北 ☑ 関東 ☑ 北陸 ☑ 中部☑ 近畿 □中国 □四国 □九州 □沖縄	
鳥獣保護管理活動の経歴		H24.4 環境省鳥獣保護管理捕獲コーディネーター 現在に至る H27.7 山梨県狩猟免許試験員 現在に至る H28.4 山梨県鳥獣被害対策専門員 現在に至る H28.4 農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 現在に至る H28.4 「すぐ捕れるコツ猟歴40年の技」発刊 H29.4 獣の足を二重に結束可能とした罠の特許取得 R5.4 農林水産省ジビエ利活用コーディネーター 現在に至る	

〇登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合に、当該利用者に限り情報の提供をします。

鳥獣保護管理捕獲コーディネーター

有泉大

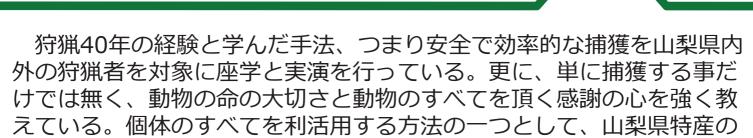
JPN野生鳥獣研究所



活動の背景

鳥獣保護管理捕獲コーディネーターとして活動を始めた平成24年頃は、鳥獣被害対といえば捕獲が主力であった。鳥獣被害を減らすためには、個体を捕獲する事が肝要であると考えている。長年の経験から学んだ安全かつ効率的な捕獲手法や、捕獲個体の利活用についての考え方を伝えていくことが重要である。

依頼を受けて実施した内容



大長人参(長さが一メートルを超える人参)と鹿肉や猪肉をブレンドした商品を開発し、その製造方法の特許を取得した。

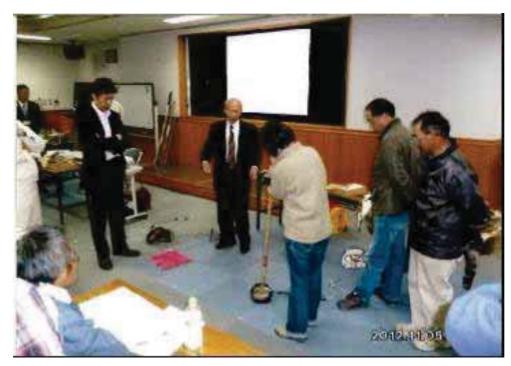


写真1:くくりわなの技術指導を実施



写真2:狩猟免許更新者対象の講習会で講師を担当

近年ではわな猟人口が増えているが、個体が暴れた場合に止めさし等の 捕獲時に負傷する事故が多くなっている。効率的に安全に捕獲する手法 として「獣の足を瞬時に二重結束する罠」を考察し、特許を取得した。 「有泉式二重結束罠」を自作製造し販売している。また、自宅内に自作 野生鳥獣処理加工所を作り、解体技術を教えている。